

「発売前重版出来！」景気のいいニュースがTwitterから飛び込んできた。版元の情報が即日読者に伝わってしまうのだからすごい時代である。本が売れなくなったと言われて久しい昨今、刊行前の本が重版されるというのは、どういうことか？ まだ誰も読んでいない本がバカ売れして初版印刷部数が足りなくなった、つまりは医学書院の市場調査が甘かったってコトだよな（笑）。などといじわるな想像を膨らませていると、アッと気付いた。「世界に名高いスペシャリスト 50 名が執筆」。ああそうか、50 名にそれぞれ弟子が 100 人ずついれば 5,000 部売れるもんな。だからか。

私は誰の弟子でもなかったが、とりあえず書籍の予約は早めに済ませた。B5 判型のしっかり重そうな本。5,000 円というからもう少しベラッペラな本かと思った。ちょっと試し読みしてみようかな……。

そこから4時間。なんと一気に通読してしまった。何度か読み返しもした。圧倒的だったのだ。「どうせエキスパートオピニオンの寄せ集めなんだろうな」的な薄い期待値を大幅に飛び越えてきた。集中医療の世界における猛烈な量の「最新クリニカル・クエスチョン（CQ）」が、総論、循環、呼吸、腎、感染症、内分泌、神経、栄養、消化器、血液、そして終末期（最高！）、その他の豪華 12 項目に分類され、一流の専門家たちが渾身のアンサーを詰め込んだ。集中治療の広辞苑みたいな本。執筆者は単著で教科書を世に送り込んでいるような猛者ばかり。5～10 ページごとに平均 50 本前後の文献が引用され、「と

きには総説のように」、「ときには新書のように」、「ときには昔なじみのように」、語りかけてくる展開は圧巻だ。個人的には、岩田健太郎先生や小尾口邦彦先生の章が大変よかったし（筆力が鬼）、福井悠・小船井光太郎両先生の「心筋逸脱酵素の解釈は？」、土井研人先生をはじめとする「AKI（急性腎障害）」、後藤安宣先生の「ICU での凝固/線溶異常」、さらには古川力丸先生による「ICU における終末期医療」などに心を奪われた。瀬尾龍太郎先生の「非専門医のための敗血症ショックの治療」に至っては切り口が素晴らしすぎてはれはれした。鈴木昭広先生にエコーの話を依頼しているのも最高だ。研修医に読ませたら心の師匠が 50 人増えるだろう。医学生に読ませたら集中治療医が倍增するのではないか。そう、この本は、すでに著者 50 名いずれかの弟子である人間たちが発売前に買ってオシマイにすべき本ではない。「50 名の師匠に師事したい人間が買うべき本」である。値段設定が 5,000 円というのは頭がおかしい。発売前重版といい、医学書院はこの本をなんだと思っているのか。素晴らしい本を出していただきありがとうございます。

余談だが、CQ の選定はおそらく責任編集の田中竜馬先生が行っている。筆力だけでなく編集力も超一流。彼こそ本物のバケモノだ。私は彼の秘書にお会いしたことがあるが、「秘書まで美人だ……」と敗北感に身を焦がしたことがある。

（B5・頁 440 2018 年 11 月 定価：本体 5,000 円＋税 [ISBN978-4-260-03671-9] 医学書院刊）